

第2章 勉学態度

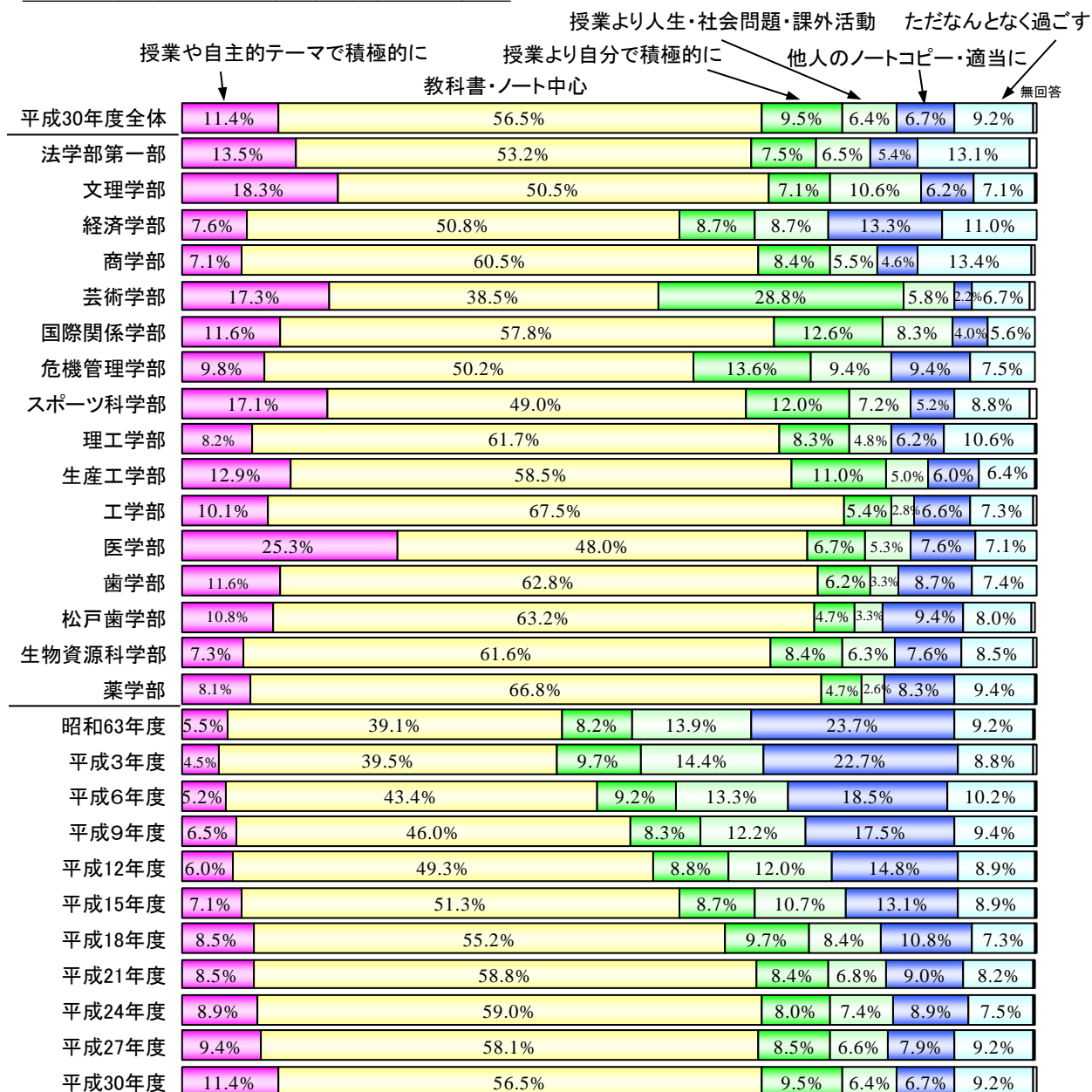
1.勉学態度

「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」している学生が56.5%。
勉学に積極的に取り組む学生の増加が24年間継続，6年前から割合をキープ。

勉学態度を見ると，「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」している学生が全体の56.5%で，各学部ともこの勉学態度が最も多くなっています。医学部は「授業や自主的テーマで積極的に勉学」（25.3%），芸術学部は「授業より自分で積極的にテーマに取り組み勉学」（28.8%）が他の学部より比率が高く，6年前よりその傾向が強まっています。

経年変化を見ると，「他人のノートのコピーで適当にすませている」が学生の減少傾向が昭和63年第1回調査（30年前）から継続しています。「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」は昭和63年度から平成24年度の24年間で約20ポイント増加しましたが，その後6年前から減少傾向になっています。一方，「授業や自主的テーマで積極的に勉学」が平成24年度から増加傾向となっており，全体的に見て積極的な勉学態度の学生が6年前から約68%レベルで推移しています。

図2-1 勉学態度(平成30年度全体・学部別・経年変化)



2.学部別 勉学態度の向上率

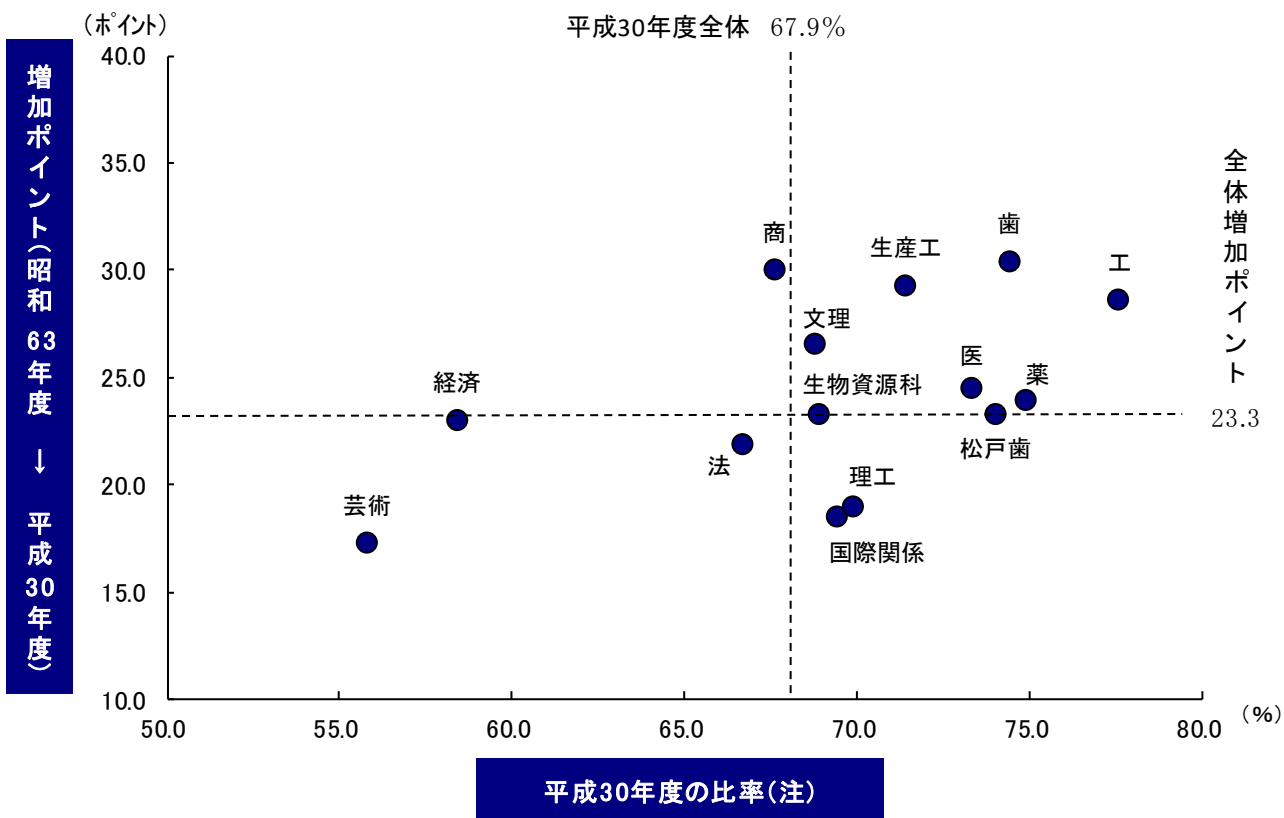
30年前に比べ全学部でまじめな学習態度の学生が大幅に増加。
歯学部・工学部・生産工学部などで目立つ。医学部と商学部では3年前からの増加大。

「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」に「授業や自主的テーマで積極的に勉学」を加えた『比較的まじめな勉学態度』が、第1回調査時（30年前の昭和63年度）に比べてどのくらい増加したのかを学部別に見たものが下図です。縦軸が増加ポイント、横軸が平成30年度の比率を示しています。この図を見ると、全ての学部で17ポイント以上増加しており、勉学態度が向上していることがわかります。歯学部では30.4ポイント以上増加し、平成30年度も74.4%と高くなっています。

その他に昭和63年度から30年間の増加ポイントが高く、今回調査（平成30年度）も比較的まじめな勉学態度の学生の比率が高い学部は工学部・生産工学部です。芸術学部は、増加ポイントが他の学部と比較して低くなっていますが、前ページで見たとおり「授業より自分で積極的にテーマに取り組み勉学を進めている」学生の比率が16学部中最も高く、さらに30年間の増加も6.3ポイントと最大になっており、学び方の違いがあることがわかります。

また、3年前と比較すると、医学部で比較的まじめな勉学態度が60.7%から73.3%と12.6ポイント増加しており、少人数によるチュートリアル形式の教育などの成果が表れているものと思われます。また、商学部でも56.6%から67.6%と11.0ポイント増加しており、近年の勉学態度の変化が大きいことがわかります。

図2-2 比較的まじめな勉学態度の向上率(昭和63年度→平成30年度・学部別)



(注) 「授業や自主的テーマで積極的に勉学」と
「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」の%の合計

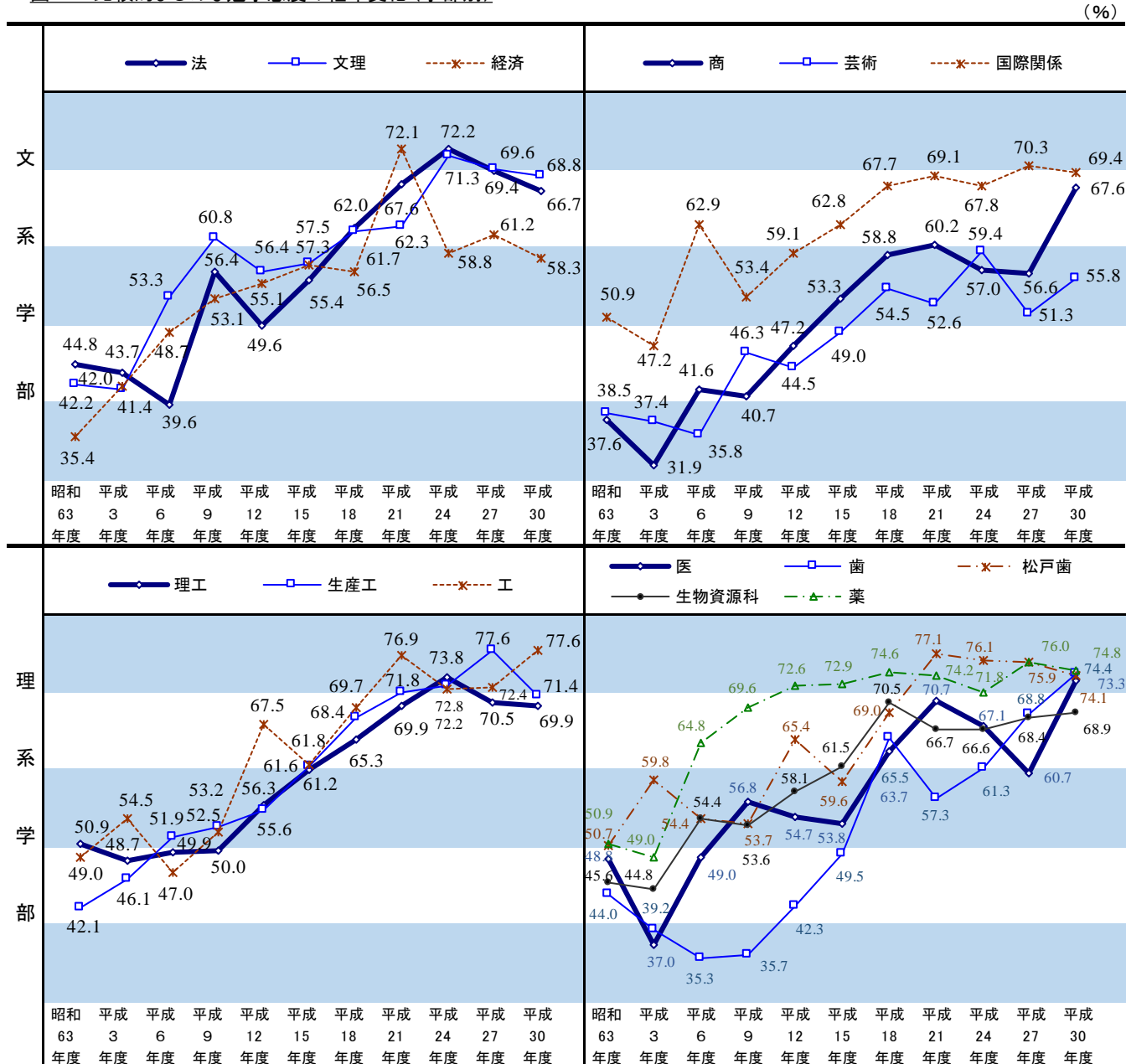
3.学部別 勉学態度の経年変化

学部により、向上時期と期間に差異。経済学部・工学部・法学部第一部・国際関係学部・薬学部は過去3年間に、歯学部・商学部・生産工学部は24年以上の期間に大きく向上。

前ページで考察した比較的まじめな勉学態度（「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」に「授業や自主的テーマで積極的に勉学」を加えた比率）の経年変化を学部別に見たものが下図です。

全学部で概ね右肩上がりの向上傾向を示していますが、学部により向上時期と期間に差異が見られます。例えば経済学部では平成18年度から平成21年度の3年間に56.5%から72.1%と15.6ポイント増、同様に工学部は平成12年度、法学部は平成9年度、国際関係学部と薬学部は平成6年度にそれぞれ3年前より15ポイント以上増加しています。一方、歯学部では平成6年度から平成30年度の24年間で39.1ポイント増、商学部では平成3年度から平成30年度の27年間で35.7ポイント増、生産工学部では昭和63年度から平成27年度の27年間で35.5ポイント増と長期間で大幅な伸びが見られます。時期や期間は異なっていますが、各学部とも、教育改革の取り組みなどに伴って、学生の勉学態度が大きく向上していることがうかがえます。

図2-3 比較的まじめな勉学態度の経年変化(学部別)



(注) 「授業や自主的テーマで積極的に勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」の%の合計

4.授業態度

保健・体育科目や専門科目（必修及び必修以外）に熱心な学生が60%超。
 専門科目は15年間、外国語も12年間、熱心な学生の比率が増加継続。

総合教育（一般・基礎）科目の授業について本学学生全体の授業態度を見ると、「授業に関心があり熱心だった」が17.1%、「まあまあ熱心に聞いていた」が41.6%となっており、両者を加えると58.7%の学生が熱心な態度で受けていると回答しています。「試験が不安だから聞いていた」「出席をとるから義務感で出ていた」といった「義務的」態度の学生は32.8%、「ほとんど聞いていなかった」「他のことをやっていた」など「無関心」層は8.5%でした。

「熱心」と「まあ熱心」を加えた比率を見ると、保健・体育科目の授業が66.7%、専門科目の必修授業が66.5%、専門科目の必修以外の授業が63.5%と総合教育科目の授業より高くなっています。平成15年度から経年変化を見ると、保健・体育科目の授業以外は概ね右肩上がりの傾向となっています。専門科目（必修及び必修以外）は平成15年度から、外国語科目は平成18年度から年々漸増しており、学生の授業態度の向上がうかがえます。

図2-4-1 科目別授業態度(平成30年度全体)

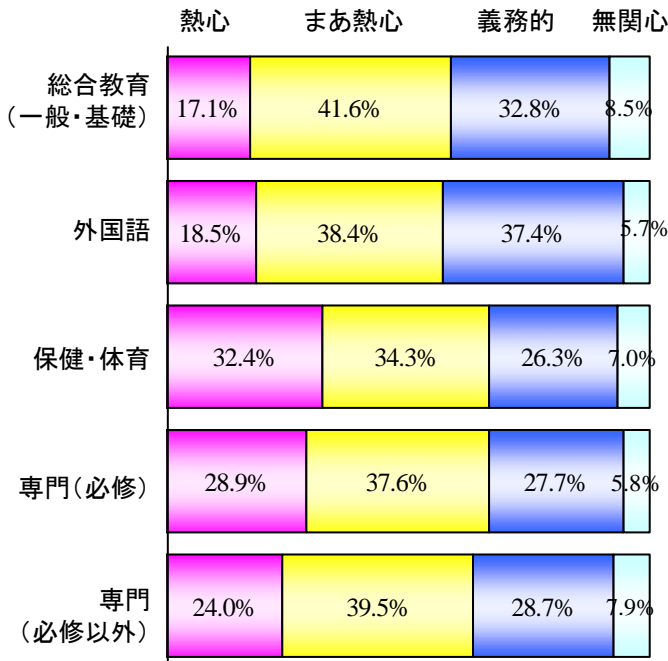
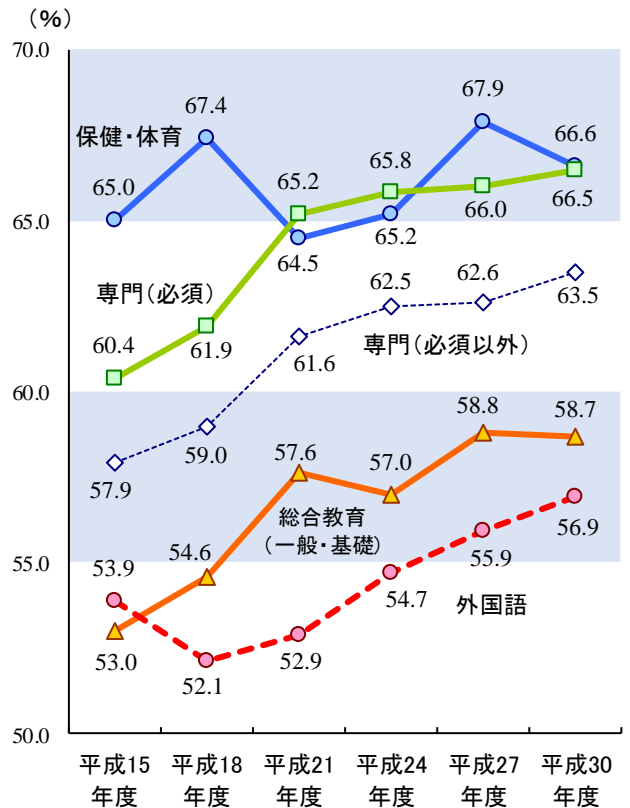


図2-4-2 「熱心」+「まあ熱心」の科目別経年変化(全体)



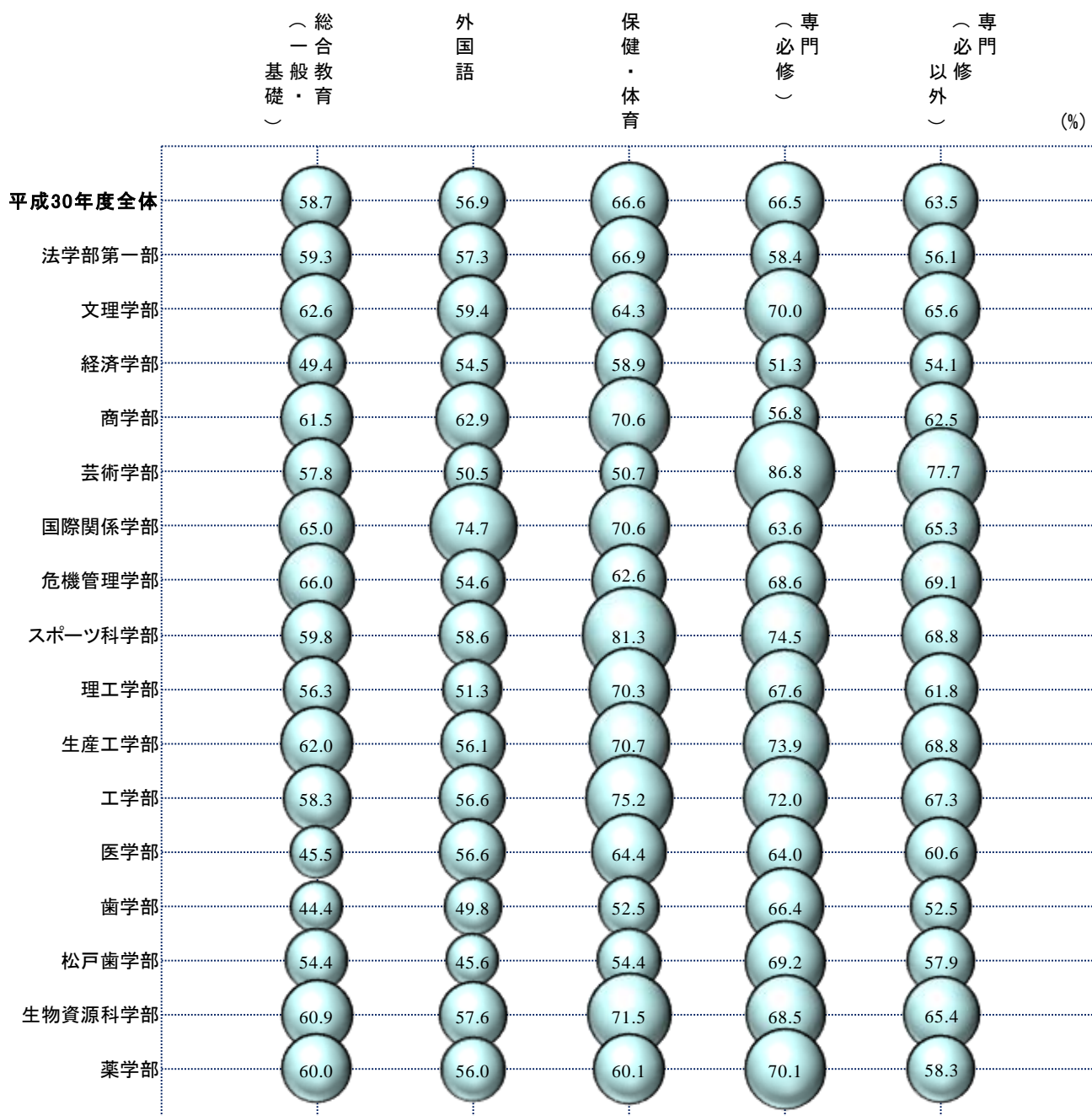
(注) 「義務的」は「試験が不安」「出席をとるから」の合計、「無関心」はそれ以外の合計
 「受講していないので答えられない」と無回答を母数から減じて%を算出

5.学部別 授業態度

熱心な科目は、芸術学部では専門、国際関係学部では外国語、スポーツ科学部では保健・体育と専門（必修），生産工学部・工学部・薬学部では専門（必修）。

授業態度について「熱心」と「まあ熱心」を加えた比率を学部別に見ると、芸術学部では専門（必修）が86.8%，専門（必修以外）が77.7%と専門科目に対する熱心度が強い点が目立っています。また、国際関係学部では外国語（74.7%），スポーツ科学部では保健体育（81.3%）と専門（必修）（74.5%），生産工学部・工学部・薬学部では専門（必修）が70%台と高くなっています。医学部・歯学部では、総合教育が低い傾向が見られます。

図2-5 科目別授業態度(「熱心」+「まあ熱心」の平成30年度全体・学部別)



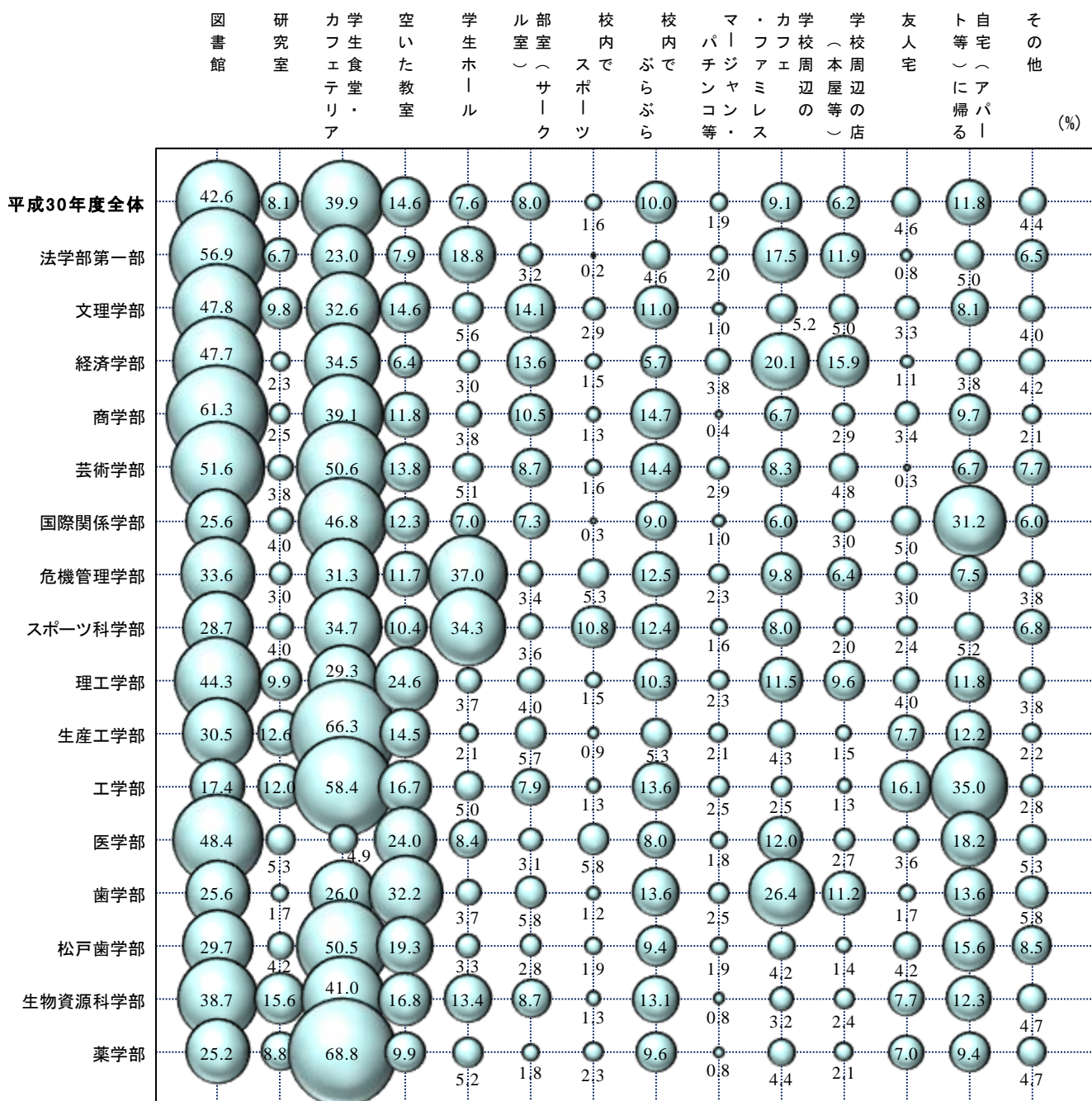
(注) 「受講していないので答えられない」と無回答を母数から減じて%を算出

6. 空き時間を過ごす場所

空き時間を過ごす場所は、「図書館」と「学生食堂・カフェテリア」が多い。
三軒茶屋キャンパスでは「学生ホール」も。
学部内の施設やキャンパス周辺の環境により差異。

学内で空き時間ができた場合に過ごす場所を見ると、「図書館」が42.6% 「学生食堂・カフェテリア」が39.9%と高くなっています。キャンパスが首都圏外にある薬学部・生産工学部・工学部・松戸歯学部・国際関係部では「学生食堂・カフェテリア」の方が高く、商学部・法学部第一部・医学部・文学部・経済学部では「図書館」がトップとなっています。国際関係部と工学部では「自宅（アパート等）に帰る」も40%前後となっています。平成28年度に都内三軒茶屋に創設された危機管理学部とスポーツ科学部では「学生ホール」で過ごす学生も多いようです。キャンパス周辺の環境や学部内の施設の充実度等によって、過ごす場所に差異があるようです。

図2-6 空き時間を過ごす場所(平成30年度全体・学部別)



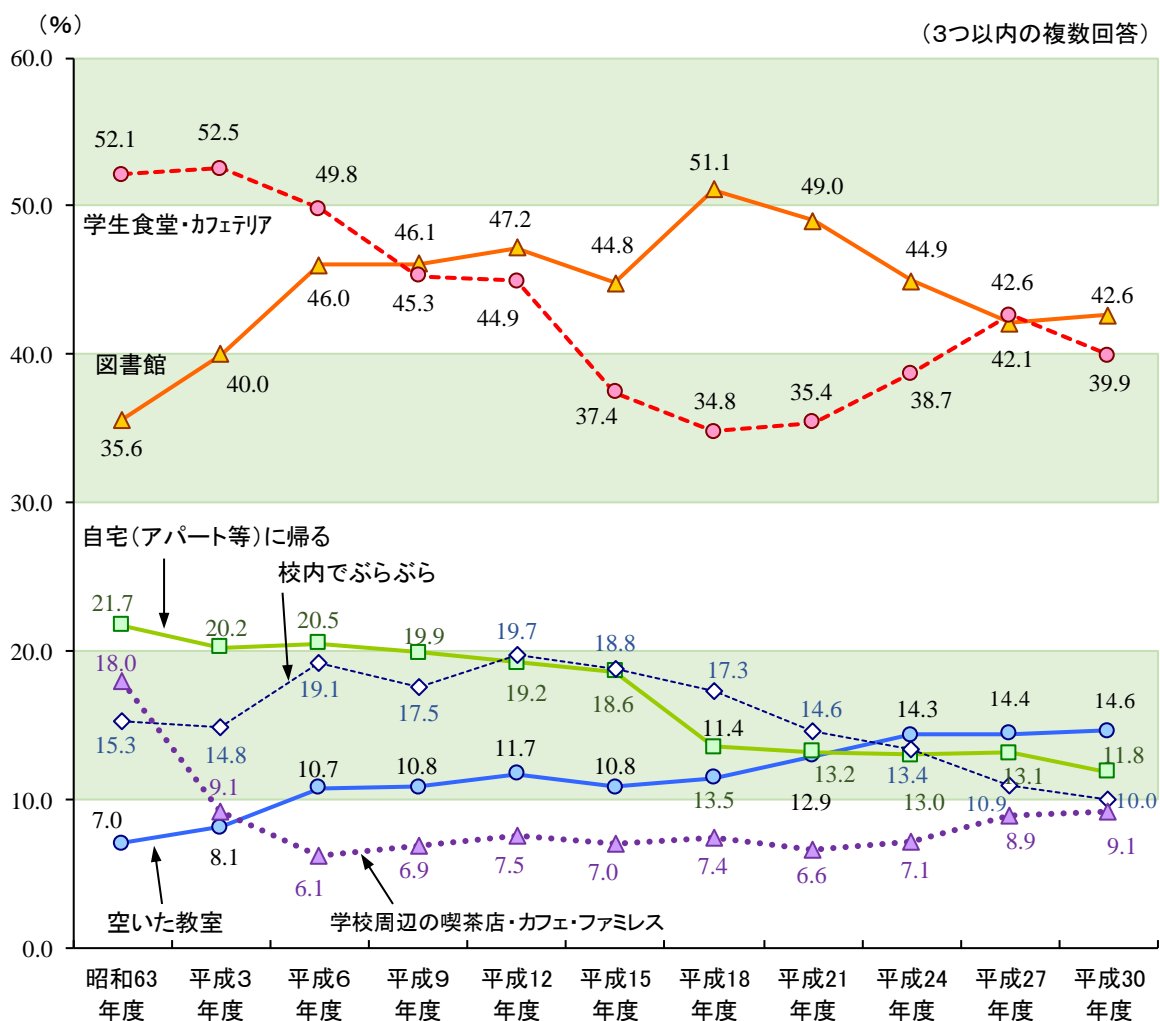
7. 空き時間を過ごす場所—今回上位6項目の経年変化

空き時間を過ごす場所は、12年前からの「図書館」減少傾向に歯止め、「学生食堂・カフェテリア」の増加傾向が減少に。施設のリニューアル効果の影響に陰り？

学内で空き時間ができた場合の過ごす場所のうち上位6項目までの経年変化を見ると、「図書館」が昭和63年度の35.6%から増加傾向にあり平成18年度には51.1%に達した後、減少傾向になっていましたが、平成30年度は42.6%と3年前より0.5ポイント増となり、減少に歯止めがかかっています。法学部と文理学部では図書館のリニューアルにより平成18年に3年前より20ポイント以上増加しましたが、平成30年度は6年前より約16ポイント減少し、リニューアル効果が薄れたようです。

一方、「学生食堂・カフェテリア」は平成3年度の52.5%から平成18年度までの15年間で17.7ポイントも減少していましたが、その後増加に転じ、平成27年度は「図書館」を僅かに上回りましたが、平成30年度は3年前より2.7ポイント減少し39.9%となっています。薬学部で学生ホールやインターネットを併設した学生食堂が完成したことにより平成21年度に71.6%と3年前比35.4ポイント増、商学部でも同年の新1・2号館竣工により平成24年度に48.7%と3年前比21.9ポイント増と、両学部でアメニティーの場が充実したこの影響も陰りが見えるようです（商学部で6年前より9.6ポイント減、薬学部で3年前より0.8ポイント減）。また、医学部では、平成18年度から平成30年度の12年間に、「学生食堂・カフェテリア」は10.1ポイント減、「学生ホール」が23.0ポイント減、「校内でぶらぶら」が13.3ポイント減、一方で「図書館」が13.6ポイント増となっており、学生の行動がより勉学に向かっているようです。

図2-7 空き時間を過ごす場所(平成30年度上位6項目の経年変化・全体)



8. 空き時間を過ごす友達の数

キャンパスで一緒に過ごす友達の数は、学部により差。
空き時間を主に1人で過ごす学生が33.8%で3年前より微減。
本学学生全体の傾向は平成18年度以降ほぼ横這い。

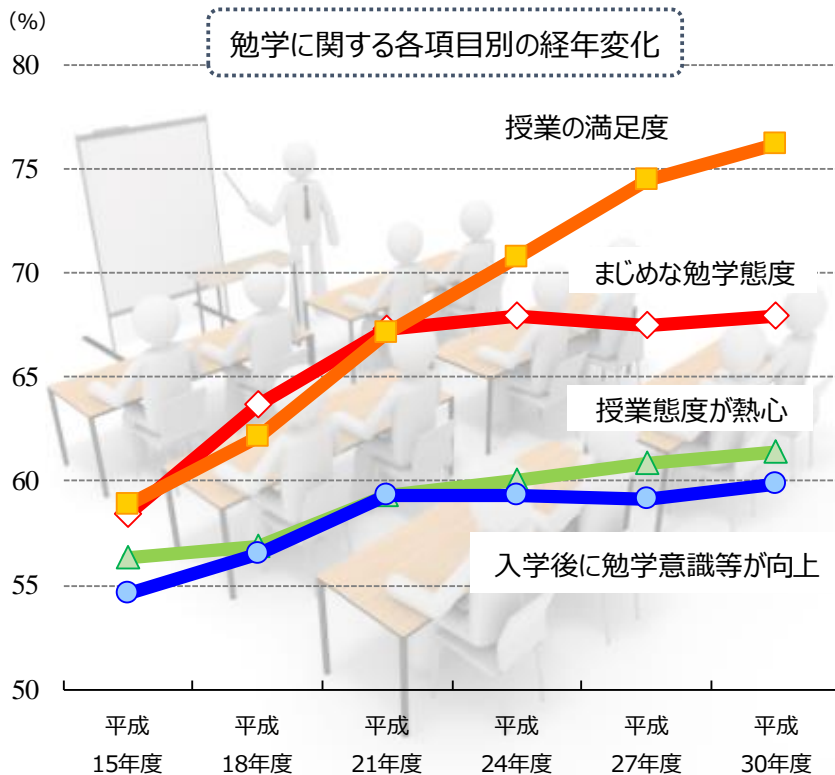
学内で空き時間ができた時に過ごす友達の数を全体で見ると、「主に1人」が33.8%となっています。一方、「2人」が22.9%、「3人」が18.3%、「4人以上」が24.0%と、友達と共に過ごすことの多い学生は合計で65.2%となります。法学部では1人で過ごす学生の比率がほぼ半数（49.7%）と高くなっています。薬学部と生産工学部では「4人以上」と多人数で過ごす学生が40%前後と高くなっています。

経年変化を見ると、「主に1人」で過ごす学生の比率は昭和63年度から平成18年度の18年間に17.1ポイント増加し、その後の9年間は微増傾向でしたが、平成30年度は3年前より1.9ポイント減少しています。一方、「4人以上」は昭和63年から18年間に18.6ポイント減少しましたが、平成30年度は平成18年度を若干上回る水準に落ち着いています。空き時間を一緒に過ごす友達の数は、平成18年度以降ほぼ横這い傾向にあるようです。

図2-8 空き時間を過ごす人数(平成30年度全体・学部別・経年変化)

	主に1人	友達と2人	友達と3人	4人以上	無回答
平成30年度全体	33.8%	22.9%	18.3%	24.0%	
法学部第一部	46.8%	26.6%	14.7%	10.7%	
文理学部	38.5%	24.1%	16.8%	19.8%	
経済学部	34.8%	25.8%	20.8%	17.4%	
商学部	42.0%	26.5%	11.8%	19.7%	
芸術学部	44.6%	22.1%	17.6%	14.7%	
国際関係学部	50.2%	26.2%	13.6%	8.0%	
危機管理学部	29.1%	26.8%	18.9%	23.0%	
スポーツ科学部	31.9%	30.3%	19.5%	17.1%	
理工学部	22.9%	20.4%	21.5%	34.4%	
生産工学部	21.2%	19.4%	19.6%	38.0%	
工学部	28.4%	16.1%	22.7%	30.6%	
医学部	42.7%	18.2%	18.2%	20.0%	
歯学部	28.1%	26.0%	23.6%	20.2%	
松戸歯学部	27.4%	21.7%	23.1%	25.9%	
生物資源科学部	28.5%	21.3%	17.9%	31.5%	
薬学部	16.9%	19.0%	22.6%	41.0%	
昭和63年度	17.3%	17.2%	21.0%	41.8%	
平成3年度	19.6%	17.8%	19.1%	41.1%	
平成6年度	23.8%	18.8%	18.9%	38.0%	
平成9年度	28.0%	19.3%	20.0%	32.2%	
平成12年度	29.1%	22.4%	20.4%	27.6%	
平成15年度	32.3%	21.8%	18.9%	25.9%	
平成18年度	34.4%	23.4%	17.7%	23.2%	
平成21年度	35.0%	21.4%	16.5%	26.2%	
平成24年度	34.6%	20.4%	16.4%	27.5%	
平成27年度	35.7%	23.0%	16.5%	23.6%	
平成30年度	33.8%	22.9%	18.3%	24.0%	

勉学志向が引き続き上昇



左のグラフは、本学学生の勉学に関する態度の経年変化を見たものです。全体的に勉学に対して熱心もしくは積極的に取り組む学生が増加していることがうかがえます。

特に上昇傾向が顕著なものは、『授業の満足度』で、平成15年度から平成30年度の15年間に58.9%から76.2%と17.3ポイントも上昇しました。特に、「教員の教え方」において顕著であり、FD活動の成果が表れていると言えるでしょう。同期間に『まじめな勉学態度』は9.5ポイント、『入学後に勉学意識等が向上』は5.2ポイント、『授業態度が熱心』は5.1ポイント上昇しています。

学部別に見ると、『授業の満足度』と『授業態度が熱心』は医学部、『入学後に勉学意識等が向上』は工学部、『まじめな勉学態度』は歯学部が最も上昇しています。

グラフの解説：◆『授業の満足度』は「教員の教え方」「科目の種類」「総合教育」「外国語科目」「専門科目」の各授業内容、「研究活動の自由さ」について満足層の%の平均値。◆『まじめな勉学態度』は「授業は勿論のこと、さらに自主的なテーマを設定して積極的に勉学」「教科書・ノートを中心として必要な単位を修得」の%の合計。◆『授業態度が熱心』は総合教育・外国語・専門科目の各授業について、「授業に関心があり熱心」と「まあまあ熱心」の合計%の平均値。◆『入学後に勉学意識が向上』は現在の行動・意識のうち、「勉学意欲がもてるようになった」「自分の基礎学力の不足を痛感する」「はっきりと目標をもって勉学している」について「はい」との回答の%の平均値。（第7章参照）◆『勉学志向全般』は前記4項目の%の平均値。

右のグラフは上記で取り上げた全4項目の平均値の経年変化を見たものです。『勉学志向全般』の傾向は平成15年度の57.2%から、平成30年度には66.3%と9.1ポイント増加しており、勉学に対する学生の意欲や熱意は年々増加していることがわかります。『勉学志向全般』について平成15年度からの15年間の変化を学部別に見ると、医学部で16.5ポイント増と最も高まったのをはじめ、工学部でも14.4ポイント増、歯学部で14.1ポイント増、商学部で11.9ポイント増、国際関係学部が11.2ポイント増などと、すべての学部で6.5ポイント以上の増加が見られ、日本大学全体で『勉学志向』が高まる傾向が続いています。

